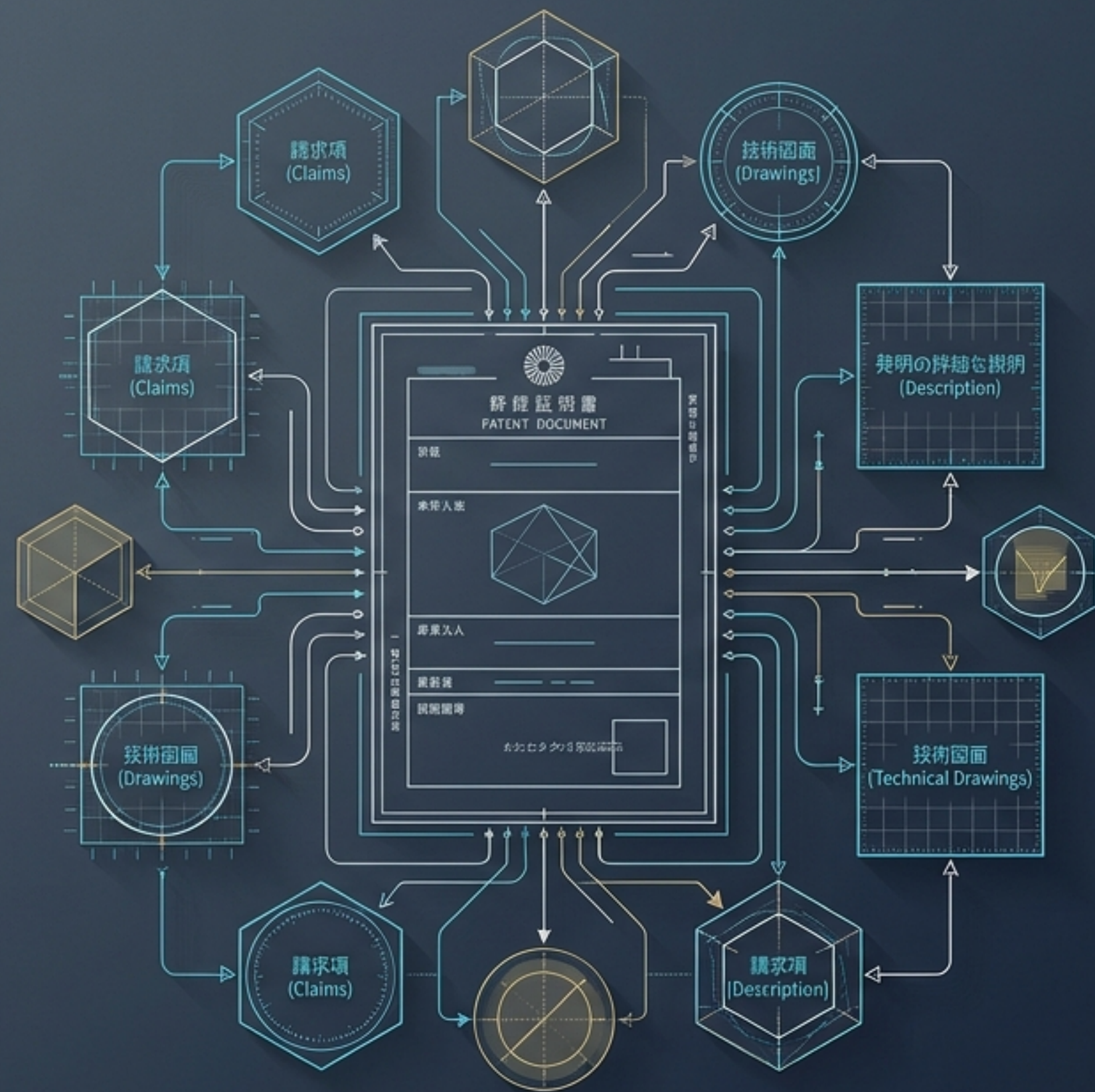


生成AI特許業務支援サービス 「サマリア」評価レポート： 国内権利化実務の再定義と 戦略的導入ガイド

2026年10月時点の公開情報および検証
に基づく、客観的・戦略的アセスメント

対象：知財部門マネージャー / 弁理士 /
特許サーチャー / CTO・CIO





THE BOTTOM LINE

万能の検索DBではなく、読解から拒絶対応・無効化書面作成までを一気通貫で行う国内実務特化の「特許実務ワークベンチ」である。



CORE STRENGTHS

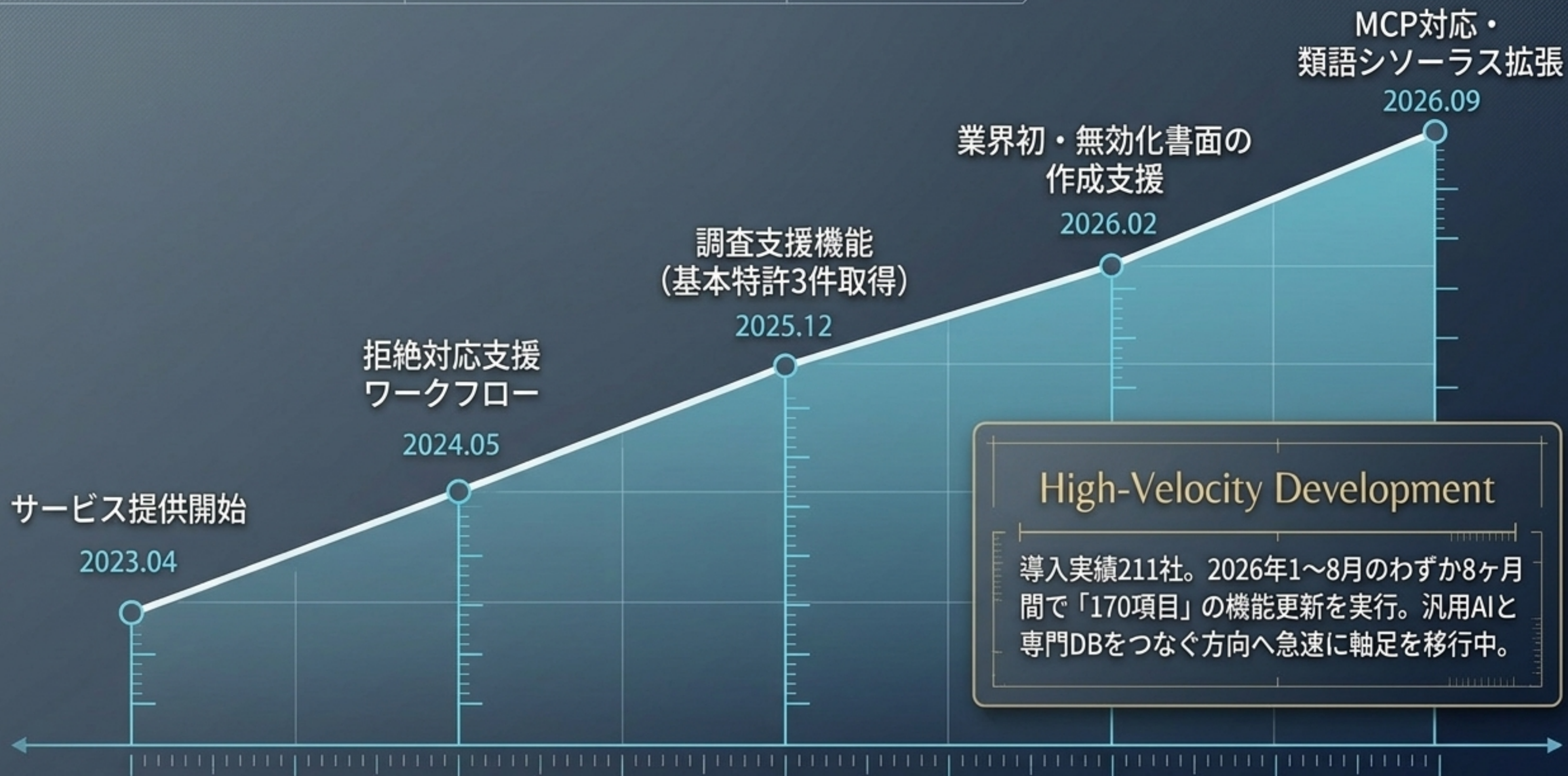
- ①弁理士監修による国内権利化実務への深い適合（校閲記録付きWord出力・記載要件違反チェック）。
- ②異常な開発スピード（2026年1～8月で170項目更新）。
- ③月2.5万円からの高い費用対効果。



CRITICAL LIMITS

母集団の網羅性を担保する特許検索DBや、可視化・指標によるIPランドスケープ戦略分析を主眼とする製品ではない。網羅的検索には他ツールとの併用が必須。

Product Evolution: 実務特化型AIとしての進化の軌跡



The 4 Pillars: コア・ケイパビリティの解剖

読解・可視化

複数文書対比
図面マークアップ
属否判定クレームチャート（最大10件）

大量処理・分類

最大12,000件への一括指示
AI定性・定量分析
分類構築

Summaria
Core

調査支援

検索式自動作成（最大50個提案）
類語シソーラス拡張（審査官認定事例）

権利化・係争

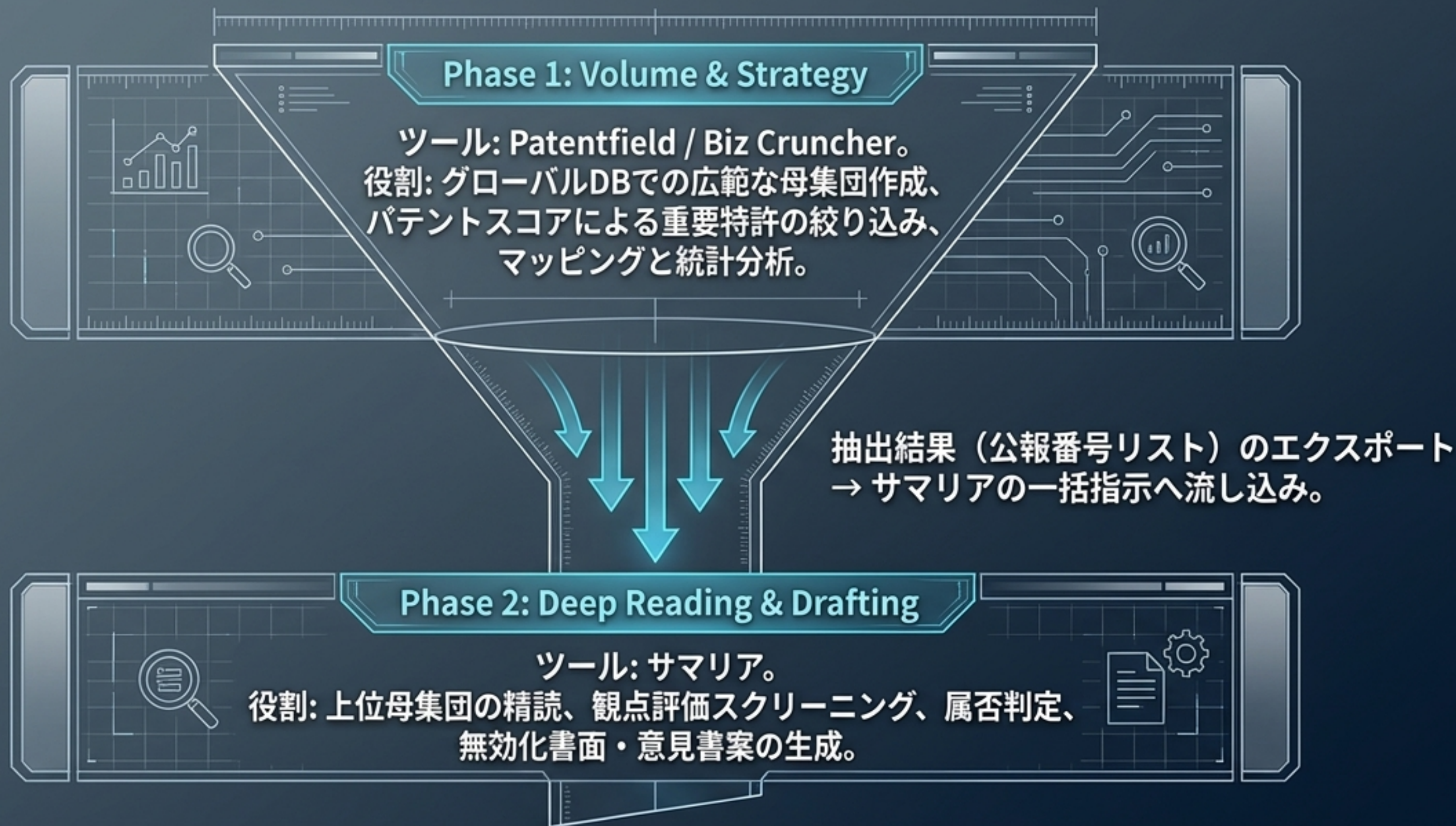
拒絶支援ワークフロー
無効審判請求書案
記載要件違反チェック
校閲記録付きWord出力

Competitive Landscape: 生成AI知財ツール・エコシステムにおける現在地

	サマリア	Patentfield	Tokkyo.Ai	Biz Cruncher	PatSnap
読解・書面ドラフト	●満点	○機能なし/弱い		○機能なし/弱い	
検索母集団作成	●補完的	●満点		●満点	
IPランドスケープ	○簡易	●満点		●満点	
日本語・国内実務	●満点				
外部連携 (MCP/API)					

サマリアは「国内実務」と「書面ドラフト（15観点中最高点の39点）」に特化。
網羅的検索に強いPatentfield等との「補完関係」が前提となる。

The Tech Stack: 最適なツール連携アーキテクチャ



「母集団の網羅性は専用DB」 「精読と書面化はサマリア」という分業が最も合理的。

Performance Reality Check: 公称値の威力と検証の限界



再現率100%

時間約7割削減

2026年特許検索競技大会過去問検証（2026.09公表）にて、上位30件で「**再現率100%**」に到達。スクリーニング確認時間を**約5時間→1.5時間（約7割）削減**と試算。



Reality Check / Limits

- 独立した第三者検証ではなく「自社検証」である。
- 3分野・正解26件のみであり、統計的有意性を主張する規模ではない。
- 拒絶理由通知書の蓄積が薄い新興分野での「類語シソーラス拡張」の効果は未知数。

破壊的な実力の目安にはなるが、導入判断には「**自社データでのブラインドテスト**」が必須。

Security Architecture: 情報管理の境界線



Core Safeguards

AWS国内保管 (TLS/AES暗号化)。
ISO/IEC 27001 (ISMS) 認証取得
済 (2025年1月)。

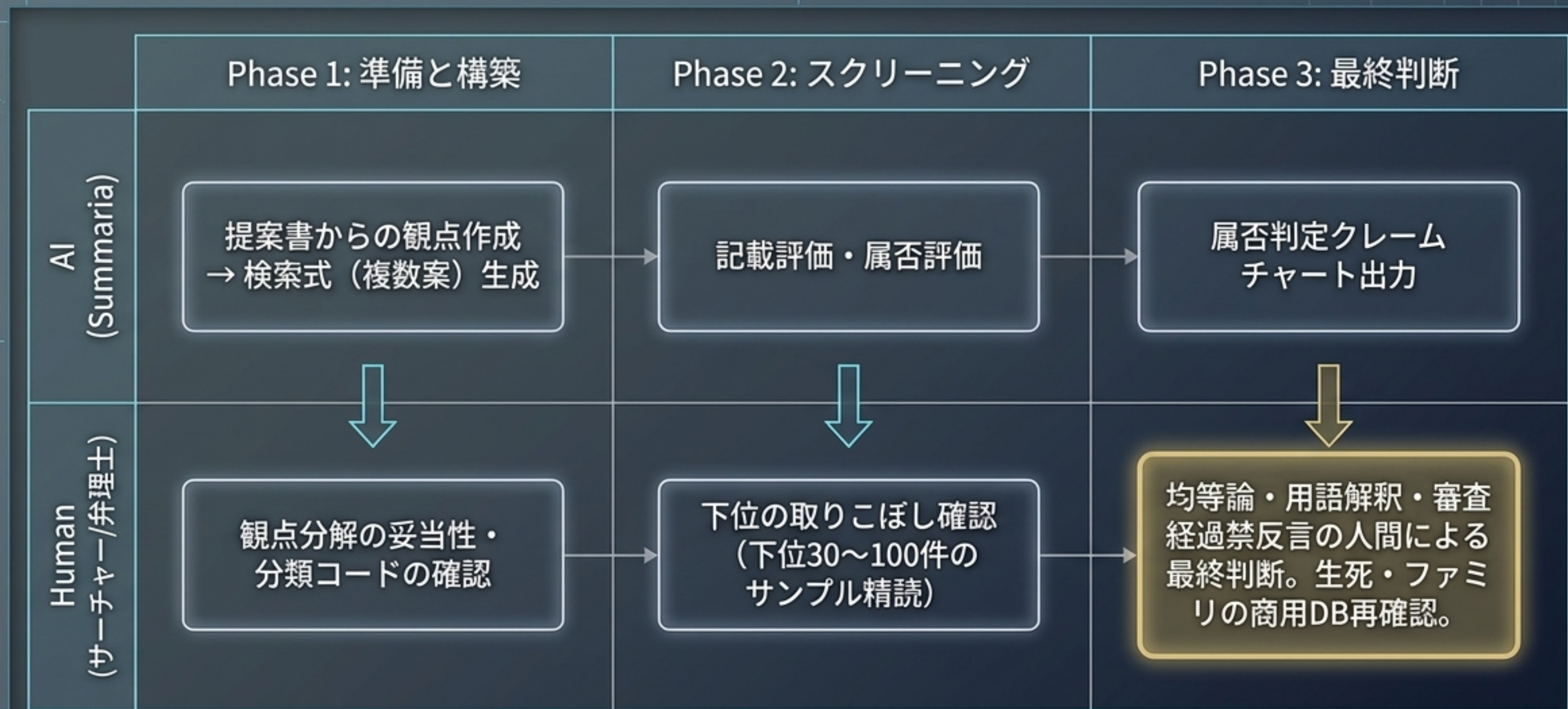
Zero Retention

入力情報はAIサービス側の学習に一切利用されない。未出願明細書でも新規性は喪失しない。

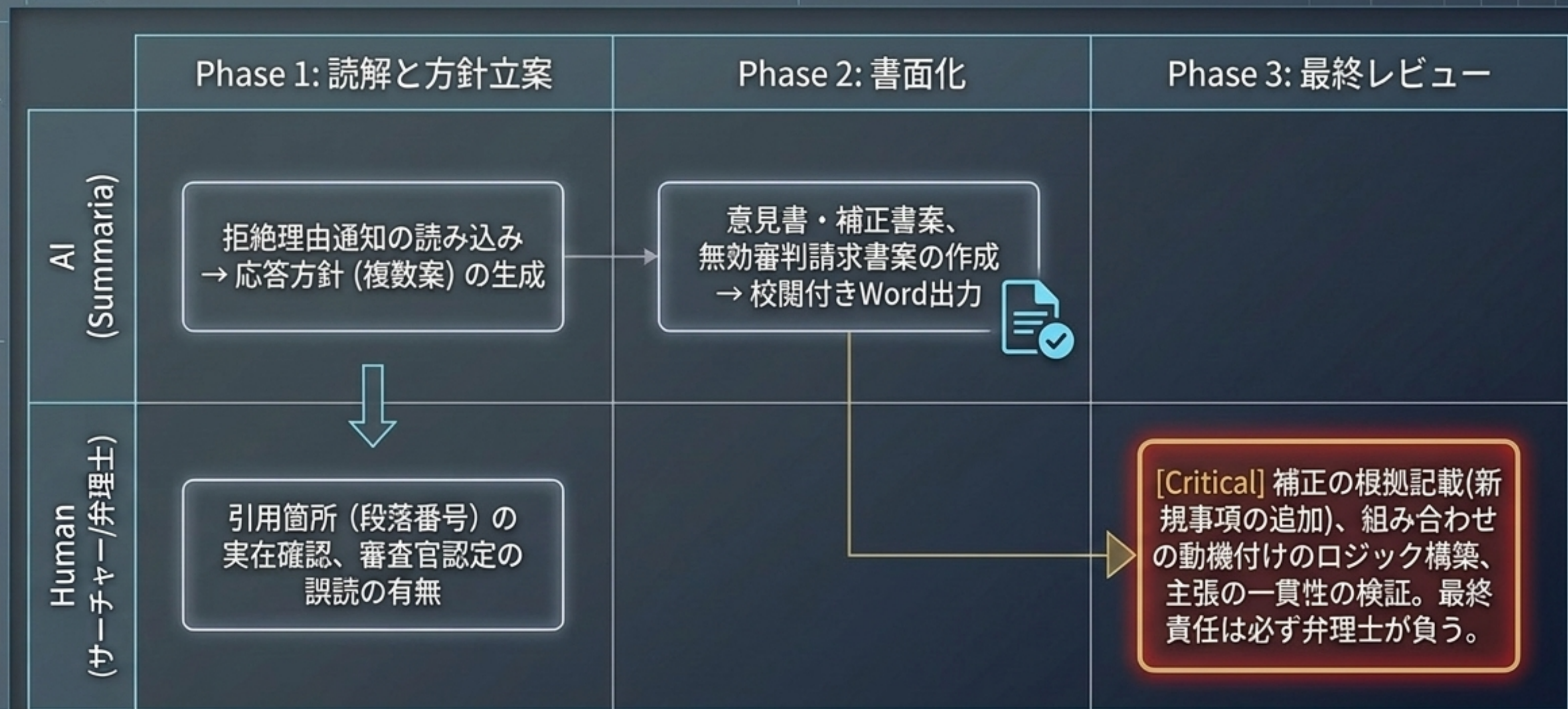
Actionable Risk

指示文と文書はAPI経由で外部LLMへ送信される。社内規程の機密区分や越境移転ルールとの照合が必要。最高機密案件には有償オプションの「**自社契約AIエンドポイント**」を推奨。

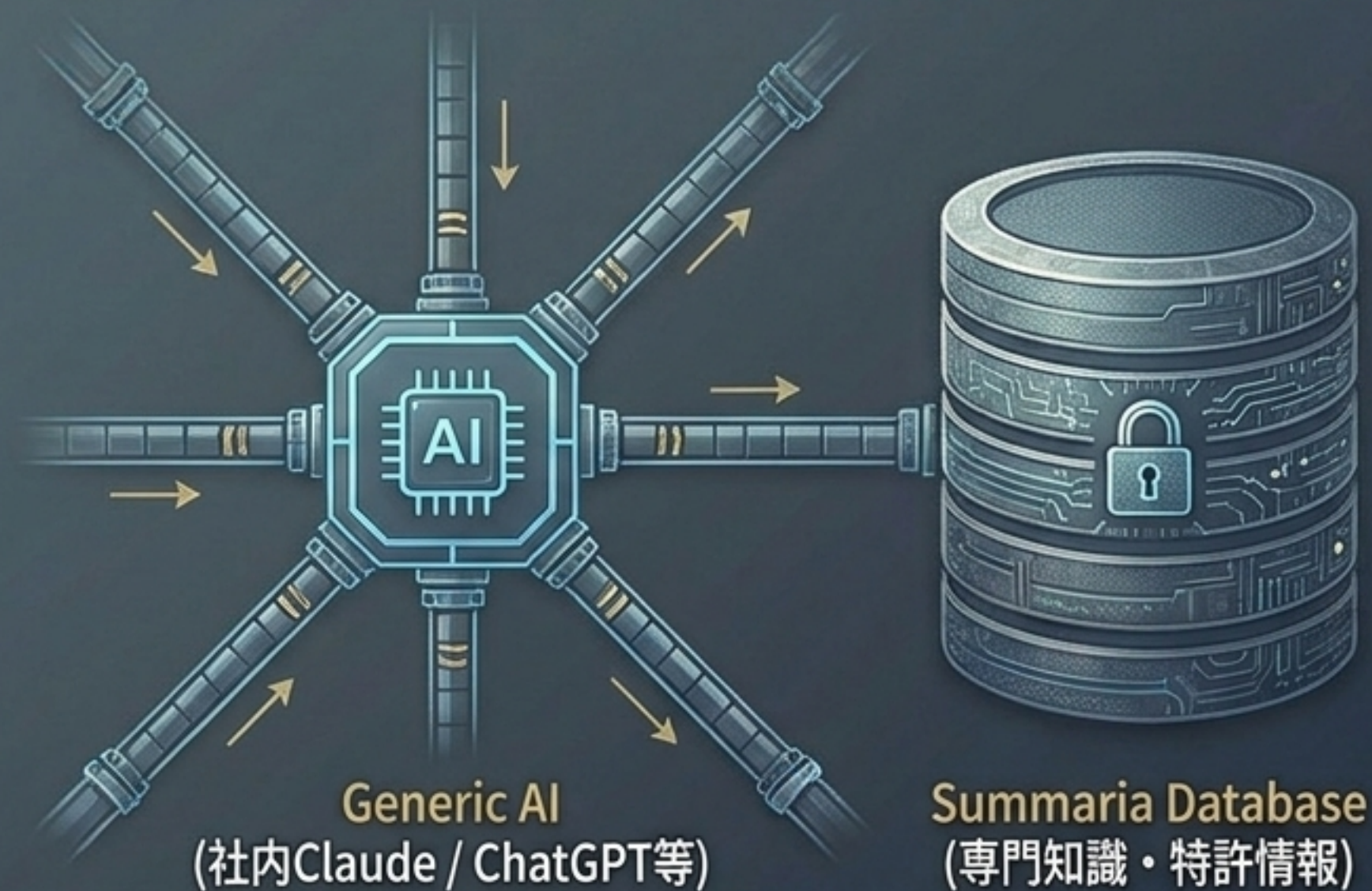
Workflow Transformation 1: 先行技術調査・FTO



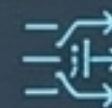
Workflow Transformation 2: 中間処理・無効資料調査



The MCP Shift: 汎用AIと専門DBの融合



Mechanism



社内で契約している汎用AIから、サマリ
アのDB（本文・請求項・書誌・図面・
分類コード説明）へ直接アクセス。

Strategic Division

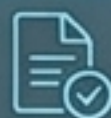


- **Summaria本体:** 大量件数の定型処理、一括スクリーニング、高度な書面ドラフト（知財プロフェッショナル用）。
- **MCP経由の汎用AI:** 特定1件のアドホックな深掘り、条件を変えながらの対話的検索（研究開発部門への開放用）。

Market Dynamics & Legal Context: 法的リスクと市場動向の現在地



弁理士法のグレーゾーン



経済産業省グレーゾーン解消制度を活用。弁理士の「適切な監督・関与」のもとでのAI支援は問題なしと整理。ただし出力書面の最終責任は弁理士・担当者に帰属する。

訴訟動向とベンダーリスク



競合（エム二社、Patentfield社）への法的措置に積極的（Patentfield戦は2026年4月に全件終了）。利用企業への直接的な法的リスクは限定的だが、ベンダー選定時のレピュテーション要因として認識すべき。

Strategic Pricing: プラン選定の最適解

ミニマム

年契約 月額換算
8,000円。
個人向け・読解特化
(指示数400回/月)。

ビジネス

年契約 月額換算
15,000円。
個人向け・標準利用
(指示数1,000回/月)。

コーポレート

年契約 月額2.5万円。
法人・組織向け。
「サマリアの全機能
(MCP含む)」が利用可能
(指示数2,000回/月)。

知財部や特許事務所が全機能を活用するなら「コーポレート」一択。
監査とID管理に必須の「メンバー管理機能 (10人まで月1.8万円)」の追加を標準
「メンバー管理機能 (10人まで月1.8万円)」の追加を標準構成として予算化すべき。

The PoC Playbook: 失敗しない導入検証の4ステップ



Step 1: 過去案件の準備

3週間の無料トライアルを活用。正解既知の自社案件（過去拒絶対応・FTO等）を5～10件用意する。



Step 2: ブラインドテスト

社内の熟練サーチャーとAIで並行作業し、「上位N件での再現率」「誤判定の類型」を客観計測する。



Step 3: ドラフト工数測定

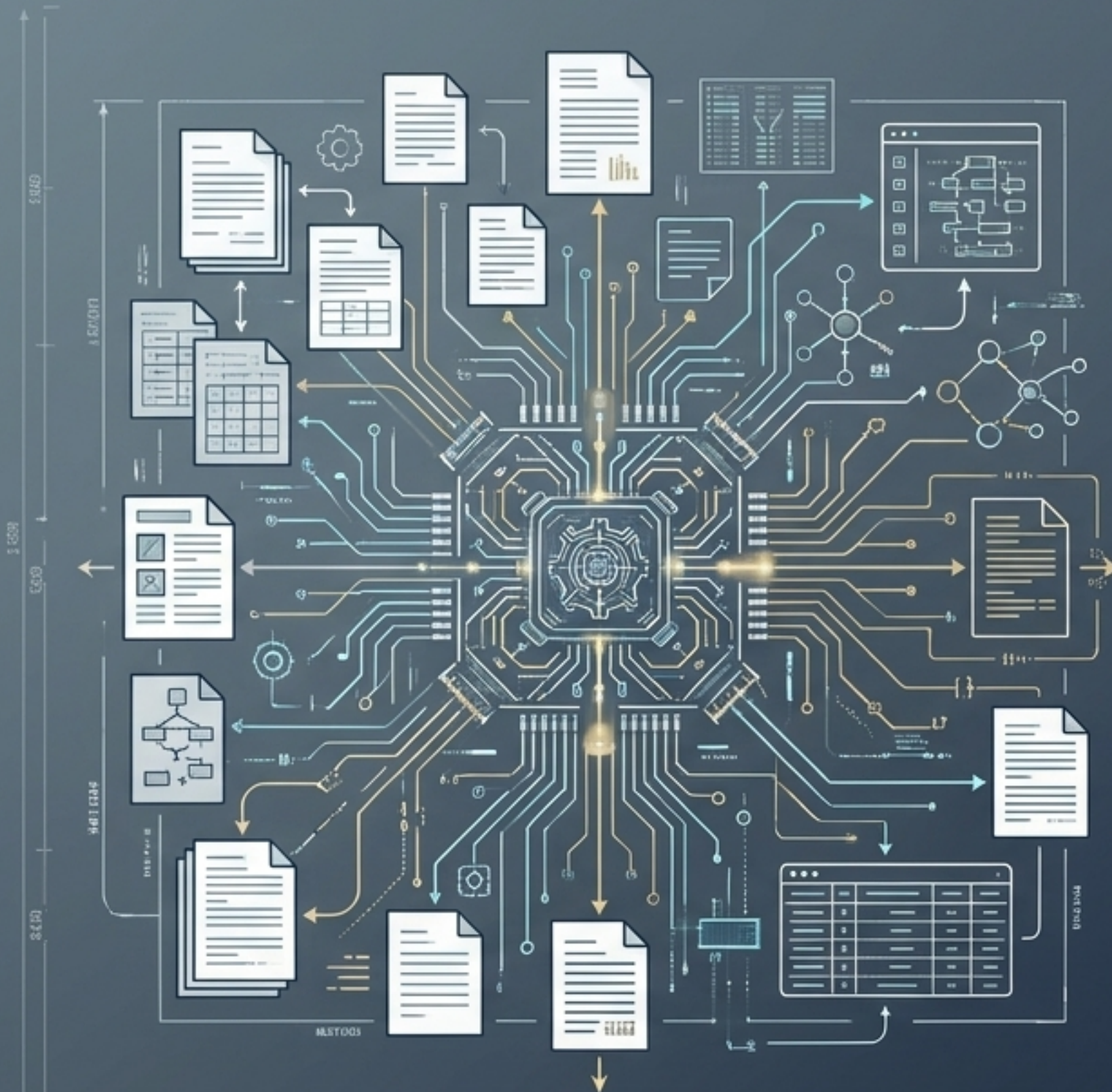
過去の拒絶対応案件で意見書案を生成し、弁理士の「修正量（校閲記録の差分）」と「所要時間」を測る。



Step 4: KPI設定

1件あたりの査読時間削減、外注費削減額、リードタイムの短縮を四半期ごとに評価・再測定する。

Synthesis: "思考の補助線"としてのデジタル・ワークベンチ



Insight:

サマリアは、知財実務家の仕事を「奪う」ものではない。それは、膨大な公報から文脈を抽出し、論理構築の土台を提示する「極めて優秀なドラフト作成者」であり、専門家のためのインフラである。

ベンダーの公称値や魔法のようなAI像を鵜呑みにする必要はない。

まずは「**自社の過去の拒絶案件1件**」をこのワークベンチに投入し、その**破壊的な初期仮説構築力**を、あなた自身の眼で検証していただきたい。